

ひとを優しくつなぐ
世界に誇る
ふじのまち



富士河口湖町は、世界文化遺産「富士山」の麓に位置し、緑豊かな自然と4つの湖を有する日本屈指の景勝地を形成しています。首都圏域からのアクセスにも恵まれ、国内外からも多くの人々が訪れる国際観光地として発展してきました。

平成30年3月には、『ひとを優しくつなぐ 世界に誇る ふじのまち』を本町が目指す将来像として掲げ、平成30年度から令和9年度までの10年間においてまちづくりの指針となる「第2次富士河口湖町総合計画基本構想」を策定しました。この将来像の実現に向け、「ひと」をテーマに5つの基本的な方向として「ひとが暮らしやすいまち」、「ひとを育むまち」、「ひとに優しいまち」、「ひとが交わるまち」、「ひとの知恵と工夫でつなぐまち」を掲げ各種施策を展開し、まちづくりを推進しています。

本計画策定から5年が経過する中で、「持続可能な開発目標（SDGs）の推進」、「デジタル社会への対応」、「大規模化する自然災害」、「新たな感染症の出現」、「先行きの見えない世界情勢」など本町を取り巻く環境は大きく変化しています。前期基本計画期間の終了を迎えるにあたり、これまでの各種施策の成果等を検証、社会情勢をふまえつつSDGsの推進など新たな指標を取り入れ、後期基本計画期間の5年に向けて「第2次総合計画後期基本計画」を策定しました。

今後の計画実現にあたっては、これまで同様に皆様のご理解とご協力をいただくなかで町の将来像を具現化していきたいと考えております。

結びに、本計画の策定にあたり、ご尽力を頂きました富士河口湖町総合計画審議会委員の皆様をはじめ、こども未来会議へご協力頂きました中学生・高校生のみなさん、住民アンケート、パブリックコメントなどにご協力いただいた多くの皆様に対して、心から感謝を申し上げます。

令和5年3月

富士河口湖町長 渡辺 喜久男